



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC  
 （奈良県保健環境研究センター内）



- 今週の概要
- 今週の感染症情報
- 病原体（ウイルス）検出情報（9月） New



（調査週）平成 24 年 第 40 週 10 月 1 日（月）～10 月 7 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	2.09	→	→	→～↑	↑↑
2	RSウイルス感染症	0.89	↑	→～↑	→～↑	→
3	A群溶連菌咽頭炎	0.71	↑	→～↑	↑↑	↑
4	手足口病	0.37	↑	↑↑	→	↓
4	突発性発しん	0.37	→	→	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数は71例で、前週報告の64例からやや増加。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②RSウイルス感染症、③手足口病、④A群溶連菌咽頭炎、⑤水痘の順。手足口病の報告数（11例）は、ほぼ倍増。感染性胃腸炎の報告数（21例）は、増加。水痘の報告数（6例）は、やや増加。RSウイルス感染症の報告数（14例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（7例）も、やや減少。また、インフルエンザ定点からの報告は、奈良市HC管内；1例のみだった。郡山HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。

（村井 記）

**県北部外来状況** 外来患者数は増加していないが、RSウイルス感染症が先週より増加してきた。年齢は2才以下の保育園児が多く、例年通り鼻水がひどく、続いて咳と朝低く夕方より高くなる熱が繰り返し、徐々にゼロゼロとした咳に変わってきます。もちろん、鼻水とせきの普通の風邪も増えてきました。  
(矢追 記)

**県中部地区概況** 報告数は、77例から89例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症・A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘・突発性発疹の順であった。感染性胃腸炎は、39例から44例と増加傾向であり、RSウイルス感染症も、11例と増加傾向である。A群溶連菌咽頭炎は、2例から11例と著明に増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。  
(高木 記)

**県中部外来状況** 外来数は横ばい、増加していない。短期の発熱、軽度咳嗽程度の感冒が多い。感染性胃腸炎もほぼ横ばい。ノロ陽性例も出てきた。ロタはまだない。典型レントゲン像のマイコプラズマ肺炎が続き、男児1例、姉妹例(2例)があった。流行性耳下腺炎が1例。その他の登録疾患はなかった。  
(岡本 記)

**県南部地区概況** 報告数(第39週→第40週)は12例→24例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(4例→8例)、②A群溶連菌咽頭炎(0例→7例)、③RSウイルス感染症(0例→6例)、④突発性発疹(4例→3例)であった。  
(柳生 記)

**県南部外来状況** ワクチン以外の外来数はあまり多くない。咳、鼻汁のかぜが多い。第39週は手足口病、ヘルパンギーナが僅かに見られたのみ。第40週でRSウイルス感染症が増加したが、他は突発性発疹症と感染性胃腸炎が少し見られたのみであった。  
(山本 記)

# 【病原体（ウイルス）検出情報（平成24年9月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、9月におけるウイルス検出状況は以下のとおりです。

患者数（平成24年9月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
アデノ	1		1		気管支炎(1)
アデノ	2		1		咽頭結膜熱(1)
アデノ	40/41		1		感染性胃腸炎(1)
コクサッキー	A4	1			ヘルパンギーナ疑(1)
コクサッキー	A9		1		手足口病(1)
ノロ	GⅡ		1		感染性胃腸炎(1)
インフルエンザ	AH3	2			インフルエンザ(2)

（保健環境研究センター 記）



感染症情報センターホームページアドレス

[http://www.pref.nara.jp/dd\\_aspx\\_menuid-27874.htm](http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm)